

## 試験研究成果普及情報

部門	麦及び雑穀	対象	普及
課題名：豆腐加工適性に優れた大豆「フクユタカ」			
<p>[要約] 晩生大豆「フクユタカ」が奨励品種として採用された。本品種は7月上旬に播種すると、収穫期は11月上・中旬で、「ヒュウガ」より数日早い晩生品種である。子実中の粗蛋白質含有率が高く、豆腐の破断強度が大きいことから、豆腐加工適性に優れる。</p>			
<p>キーワード（専門区分）育種（研究対象）豆類 - ダイズ                      （フリーキーワード）奨励品種、豆腐加工適性、大豆、フクユタカ</p>			
<p>実施機関名（主査） 農業総合研究センター 育種研究所 畑作物育種研究室                      （協力機関） 農業総合研究センター 畑作園芸研究室、水田作研究室                      （実施期間） 1979年度～1983年度、2000年度～2003年度</p>			

### [ 目的及び背景 ]

現在、本県の晩生大豆の奨励品種は「ヒュウガ」であるが、国産大豆に求められている豆腐加工適性が低く、実需者からの評価も低い。そこで「ヒュウガ」に替わる豆腐加工適性の高い晩生大豆品種の奨励品種候補の選定を進めた。

### [ 成果内容 ]

九州農業試験場（現独立行政法人九州沖縄農業研究センター）育成品種「フクユタカ」が奨励品種として採用された。

「フクユタカ」の特性は

- ・7月上旬の播種では、開花期は8月下旬、成熟期は11月上～中旬でいずれも「ヒュウガ」より数日早い。早晩性は「ヒュウガ」同様の晩生種である（第1表、第2表）。
- ・「ヒュウガ」に比べ、主茎長、分枝数は同程度で主茎節数はやや少ない。「ヒュウガ」同様に、最下着莢高が高く、倒伏は少ない（第1表、第2表）。青立ちし難いので機械収穫にも適する。
- ・「ヒュウガ」に比べ収量性は高い（第1表、第2表）。
- ・熟した莢の色は淡褐色で裂莢し易い。粒はへそ周辺の裂皮が多いが、粒揃いも良く、品質は良好である。種皮色は黄白でへそ色は淡褐色である。
- ・子実中の粗蛋白質含有率が高く、豆腐の破断強度（堅さ）が大きく（第3表）、豆腐加工適性に優れる。

「フクユタカ」の栽培方法は

- ・施肥は窒素量で10a当たり2～3kgを目安に、前作等を考慮して増減する。
- ・栽植密度は10a当たり10,000～15,000本程度とする。
- ・7月上旬播種で収量、品質とも安定する。6月播種では倒伏、蔓化の危険性が高まる。
- ・刈り遅れると裂莢し易いため、適期収穫を行う。刈払い機・ビーンハーベスタ等では、莢水分20～25%、コンバインでは子実水分18～20%、茎水分50～55%で収穫する。

### [ 留意事項 ]

コンバイン収穫は11月中旬以降となり、後作に麦を作るのは難しい。

[ 普及対象地域 ]

県下全域

[ 行政上の措置 ]

奨励品種とする。

[ 普及状況 ]

平成14年度作付面積は416ha、品種別面積比率34% (1位)。

[ 成果の概要 ]

第1表 奨励品種決定調査結果 (昭和53~58年、平成12、14~15年の平均)

品種名	播種期	開花期	成熟期	倒伏の 程度	主茎長 (cm)	主茎節数 (本)	分枝数 (本)	最下 着莢高 (cm)
	(月.日)	(月.日)	(月.日)					
フクユタカ	7.4	8.24	11.09	微	67	16.3	4.6	16.4
(標)ヒュウガ	7.4	8.26	11.12	微	68	17.1	4.4	18.5
(比)タマホマレ	7.4	8.15	10.31	微	52	14.0	4.7	14.8

品種名	a当り 地上部重 (kg)	a当り 子実重 (kg)	標準 対比	百粒重 (g)	子実の障害				子実の 品質
					紫斑	褐斑	裂皮	虫害	
フクユタカ	67.7	35.2	107	30.7	微	無	中	少	上下
(標)ヒュウガ	65.3	32.8	100	26.4	少	微	微	少	上下
(比)タマホマレ	55.6	28.4	87	27.5	少	無	微	少	中上

第2表 水田転換畑における品種比較試験結果 (昭和54~57年の平均)

品種名	播種期	開花期	成熟期	倒伏の 程度	主茎長 (cm)	主茎節数 (本)	分枝数 (本)	最下 着莢高 (cm)
	(月.日)	(月.日)	(月.日)					
フクユタカ	7.4	8.22	11.11	少	83	16.7	6.4	18.6
(標)ヒュウガ	7.4	8.24	11.13	少	80	16.8	5.6	18.7

品種名	a当り 地上部重 (kg)	a当り 子実重 (kg)	標準 対比	百粒重 (g)	子実の障害			
					紫斑	褐斑	裂皮	虫害
フクユタカ	59.0	28.8	107	31.2	無	微	中	微
(標)ヒュウガ	54.7	27.2	100	27.6	無	微	少	微

第3表 「フクユタカ」の粗蛋白質含有率

品種名	奨励品種決定調査*		育成地データ (九州農業試験場成績)		
	におけるデータ		蛋白質** (%)	脂肪** (%)	豆腐破断強度*** (g/cm <sup>2</sup> ·cm)
	蛋白質 (%)	脂肪 (%)			
フクユタカ	40.0	19.1	42.3	23.0	130.0
(標)ヒュウガ	37.5	19.5			
(比)タマホマレ	37.4	19.0	39.2	23.1	77.5

\* 奨励品種決定調査データは平成14年のもの

\*\* フクユタカは平成8~10年、タマホマレは平成9~10年の平均。

\*\*\*フクユタカは平成8年、タマホマレは平成9年のもの。

[ 発表及び関連文献 ]

平成15年度試験研究成果発表会

ダイズ新品种「フクユタカ」について、九州農業試験場報告22巻3号p.405~432(1982-10)